

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第2回相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会		
事務局 (担当課)		文化財保護課 電話042-769-8371 (直通)		
開催日時		令和6年2月22日(木) 10時00分から12時00分まで		
開催場所		ウェルネスさがみはら A館7階 視聴覚室		
出席者	委員	17人(別紙のとおり)		
	その他	3人(委員付添1名、コンサルタント2名)		
	事務局	4人(生涯学習部長、文化財保護課長、他2人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 議 題 (1) 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について (2) その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。(○委員発言 ●事務局発言)

1 あいさつ

文化財保護課長、会長より挨拶を行った。

2 議 題

(1) 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について

事務局から資料に基づき説明を行った。

「序章」について

事務局から「第1回協議会から今回の協議会までの経緯」、「文化庁の指針に準拠するよう文化庁から指示を受けたこと」、「第4章「3. 文化財の保存活用に関する将来像」を章立てとしたうえで第4章の前に移動させたこと」、「序章の概要」について説明を行った。

◆以下、質問及び意見

○序-1 ページは、いきなり歴史から入っているが、山岳部のことや人類の活動のベースとなることについても雄大な相模原の歴史となるので入れた方がよい。

●歴史の舞台となる大地の形成については、歴史の前段部分に地形・地質についての記述を加えさせていただく。

○序-1 ページの計画期間については後で触れられてはいるが、計画の理解を進めるため、この計画作成の背景と目的の中でも明示するよう配慮してほしい。

●記述の仕方について検討する。

○第3節の計画期間については、序章に入れ込むことをお願いしたい。

○序-9 ページの市教育振興計画に市民ボランティアによる文化財調査員の育成という文章が入っていて嬉しく思っているが、調査員を育成したらどう活用していくかについても検討したいので、文章として入れて欲しい。

●既存の部門別計画の説明であるため、ここで扱うことはできないが、来年度検討する文化財の保存、活用の課題などで、地域の方々やボランティアとの連携といった形で反映させていただきたい。

○序-1 ページの「国指定史跡に指定」は「国史跡に指定」でよいと思う。2 ページ目の「シビックプライド」は、あとで説明されてはいるが、ここでの説明の取り扱いについても検討して欲しい。神奈川県の大綱を取り上げていただき有難いが、県大綱に掲げる重点推進テーマは相模原市にも当てはまることなので、今後、

記載の中でそれなりに触れていただければ県として有難い。

- シビックプライドやウェルビーイングについては、最終的に巻末に用語解説が入ってくると思う。県の大綱を勘案して地域計画を作る必要があるので、重点的な推進テーマについても盛り込んでいきたい。
- ご意見にあった、文化財調査員の育成は、来年度の「文化財保存、活用に関する将来像」のところに具体的な内容を盛り込む形はあろうかと思う。文言の修正等や県の大綱もご意見を活かす形で調整いただきたい。

「第1章」について

事務局から「第1章の概要」の説明及び「1-9 ページの交通機関にリニアに関する内容を記述すること」についての報告を行った。

◆以下、質問及び意見

- この章については、必要最小限の説明と図表によって構成されているが、文化庁のガイドラインや指導に沿ったものと考えてよいか。
- なるべく簡素化する方向で指導されている。
- 地形の関係では、河岸段丘が3段にわたって形成されていることに関心の高い方がいるので、その形成過程などについて、もっと強調した方がよい。
- 第2項の地形・地質で触れているが、加筆する。
- 図1-3の台地の説明図ももう少し見やすいものに訂正願いたい。
- 1-5 ページの「植生は」という主語に対して「ほとんど西部を占めている」という言い方は違和感がある。図でも東部の台地が白くなっていて植生がないようにも見えるので、「本市の植生は、自然林地域、森林地域、里山地域に大別でき、自然林地域と森林地域のほとんどを西部が」というような修正が必要。
- ご指摘のとおり、相模野台地には段丘崖に連なる斜面林や雑木林など特徴的な植生があるので、そのように修正する。
- 1-6 ページの社会的状況、沿革のところに相模原の名前の由来を入れて欲しい。
- 序章に加えさせていただく。
- 1-6 ページの沿革が明治から始まっているが、相模原という名称についても、津久井の合併や、愛甲郡、高座郡に分かれていた歴史的経緯をわかりやすくすると、お互いのアイデンティティーを尊重し合える計画になると思う。
- 沿革の冒頭にそのあたりを加えたい。愛甲郡や高座郡については3章でも触れている。
- ご意見を盛り込んでいくと文章量も増える。図1-12に土地利用が記載されているが、小さくて見づらいので、全体のレイアウトも変える必要がある。

「第2章」について

事務局から「第2章の概要」について説明した。

◆以下、質問及び意見

- 表 2-1 で、「城山」だけでは混乱するので、「町」などの行政区域を入れた方がよい。文化財の調査についても、今までやっていない感じがするので、江戸時代の小山田与清の地誌調査や、明治初めの青木氏の調査などについても簡単でよいので触れてみてはどうか。
- 2-2 ページの下などに入れてもらい、寸沢嵐の石器時代遺跡の調査なども重要なので入れて欲しい。
- 表 2-1 の庚申塔は県では有形の民俗文化財のカテゴリーなので、重複などに注意してほしい。
- 本市では徳本念仏塔が相当するので、分類についてはチェックさせていただく。
- 市としての文化財調査が主に挙げられているが、神奈川県史における古文書調査や、明治大学の津久井の詳細な調査などは取り上げないのか。
- 県史では甲州街道の調査もテーマとして扱っているのでは、県史調査についても盛り込む。
- 柳田國男の調査も加えてほしい。

「第3章」について

事務局より「第3章第1節の概要」、「指定文化財一覧を巻末に入れること」について説明した。

◆以下、質問及び意見

- 3-2 ページの相模原市には弥生時代の遺跡がほとんど出ない理由を入れて欲しい。
- 県内では横浜市の鶴見川流域や、相模川下流の海老名、茅ヶ崎周辺の台地に弥生時代の遺跡が多く見られる。相模原の段丘では、川は流れているが、弥生時代では水田には選択されにくかったと考えられる。当時の交通的な観点では、海沿いや低地沿いの文化が広がる中で、相模原から丹沢山麓まで開拓する人々の数としては少なかったのではないかと。むしろ、大規模な水田ではなく、段丘の湿地周りに、米の他にアワやキビなどの雑穀類を小規模に栽培することなどが初期の弥生文化だと最近分かってきたので、小規模な遺跡が見つかる可能性はある。

- 稲だけではなく、アワやキビなどの雑穀栽培については少し触れさせてただいている。
- 3-4 ページの「本地域では遺跡は極めて少なく」を「本地域で発見されている遺跡は少ない」という表現が適切か。
- 図 3-7 のキャプションが向原遺跡住居状遺構などとなっているが、津久井城跡は池のような写真なので、他に合わせるよう写真を変えるかキャプションを工夫してほしい。
- 3-4 ページで無量光寺を入れていただき有難い。今現在、時宗の組織は旧大本山、あるいは由緒寺院、根本道場という言い方があるのでそのような表記としてほしい。
- 田名向原遺跡旧石器ハテナ館では、「遺跡の宝庫相模原、実はあるんだ弥生時代」という活動をやっている、弥生時代の遺跡がないわけではないと思う。また第3章は相模原の文化財について概観している部分で、市民や児童生徒、学生が一番読まれる部分と思われるので、字体や文字の大きさなど、読みやすさに最大限配慮して見やすいものにすべき。地域の地名や遺跡名についても、ひとつひとつ振り仮名や注釈をつけるべきと思う。
- 文化庁からも誰が読むのかについて指摘されているので修正していきたい。
- やはりビジュアルは重視すべき。写真もインパクトのある入れ方が重要。無量光寺の写真も、庭園のような写真なので、歴代上人墓所の宝篋印塔群を入れるべきだと思う。津久井城の写真も城跡らしいものにしたり、田名半在家の龍文鏡の写真も重要な遺物なので入れて欲しい。第3章は肝になるところなので内容の検討をお願いしたい。

事務局より

- ・第3章第2節及び第3節の説明をした。
- ・図 3-14 を地区ごとに分けるなどして大きく表示する。

◆以下、質問及び意見

- 指定文化財の一覧に、アクセス利用などに配慮し、相模原市以下の字名の所在地を入れた方がよいと思う。
- 津久井地域や津久井郡、津久井町という表記が混在しているので、使い分けが必要。
- 説明を加えていきたい。
- 3-26 ページの民俗文化財で、番田の神代神楽がなくなり非常に残念である。岩手の黒石市では千年続いた祭りが今年度なくなった。第6章に出てくると思うが、

人的資源をどう育成するかについて、どのように盛り込まれるのか期待している。

○神代神楽がなくなったことは民俗芸能保存協会としても大変なことである。高齢化はどこでも進んでおり、教育委員会から小中学校に働きかけて、継承者不足問題をストップするシステムを作っていただきたい。

●非常に大きな課題というところになる。来年度の地域計画の中では重要なところになってくると思う。民俗芸能の保存団体と学校とのマッチングが教育委員会の方でできればよいと思う。

○この冊子が完成して学校に配られる時に、単に配られただけでは教員は見ないので、目次に何か工夫はできないか。教員は、自分たちがどういう題材を使って子どもたちにどういう力を身に付けさせるのかを考える中で、自分たちで調べて何かを作り出すことも必要であるし、地域から何か提供されて、これは使えると思ってやっていくことも必要だと思っているので、この冊子がいろいろな教材として使えればと思う。また、出前講座であれば、学校側はそれを活用して何かをしようと考え、授業の内容も教員一人一人がするものなので、そうした一覧というものがあるとマッチングしやすいと思う。

○コロナの状況下で、すべてが埋没して内向きな思考になっていった時に、何とかそういうものを繋ぎ合わせ、地域が再生する手がかりを作っていかなければということで、小原の場合は本陣祭を控える中で、ヤッコの舞をする人が大変少なく、昨年から保存会を作り、中学校に働きかけ、総合学習で本陣に来て勉強していただく取組をしてきた。

●地域の文化財を学校教育に結び付けるようなシステムが必要で、教員の方が地域の歴史や文化を教材として扱えるような引き出しのようなものを沢山用意できるように、来年度の計画に盛り込みたい。

○序章に相模原地域遺産があるが、これをどこに盛り込むのか。

●第3章の指定文化財、未指定文化財の説明の後に、伝承などといった形で、説明を加えていく予定だが、今回は資料提示に至らなかった。

○3-22 ページの有形文化財で建造物の内訳に国登録は入っていないのか。もし可能なら中村家住宅が重要なので入れて欲しい。

○3-9 ページに「指定・登録文化財」とあるが、序章第5節では「指定等」にくくられており、説明がされていないので、用語の定義にそれらの意味合いを注記して欲しい。第3章の歴史の変遷や文化財の概要の記述は、計画後半で出てくる関連文化財群等のストーリーに結び付けるように記述して欲しい。歴史文化の特性のステージIVで、水について取り上げているが、相模川の水運については触れられていない。歴史の概要に入れるのはどうか。

○神代神楽や小原宿の話もあったが、復活に向けて支援していくことを目標とし

て、この計画に盛り込んでいくアクションプランに具体的な方策を盛り込み、国の補助金を獲得していくような取り組みが必要である。

○3-13 ページの大谷家旧主屋の所在は相模湖町なのか。

●大谷家は解体された部材を教育委員会の収蔵施設に保管しており、その場所が相模湖である。

○3-27 ページで無量光寺の踊り念仏の説明があつたが、双盤念仏や雅楽も熱心に継承されているので紹介してほしい。

(2) その他

次回日程等について事務局から説明を行った。

以 上

令和5年度第2回相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会
委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	馬場 憲一	法政大学名誉教授		出席
2	内川 隆志	國學院大學教授	会長	出席
3	大貫 英明	相模原市文化財研究協議会 会長		出席
4	篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会 会長		出席
5	曾根 勝	特定非営利活動法人 建築文化研究会 副理事長		出席
6	飯田 覚隆	宗教法人 無量光寺 代表役員		出席
7	野口 浩史	公益財団法人 神奈川県公園協会		出席
8	小林 幸治	小原宿活性化推進会議 会長		出席
9	吉野 賢治	公益社団法人 相模原市観光協会 代表理事	副会長	出席
10	永山 一雄	公募市民		出席
11	横山 淑子	公募市民		出席
12	谷口 肇	神奈川県教育委員会文化遺産課 副課長		出席
13	秋山 幸也	相模原市立博物館 総括副主幹 (学芸班担当)		出席
14	藤原 啓	相模原市学校教育課 (指導主事)		出席
15	市橋 剛輝	相模原市観光・シティプロモーション課 参事 (兼) 課長		出席
16	森 英紀	相模原市建築政策課 課長		出席
17	笠原 正則	相模原市文化振興課 参事 (兼) 課長		出席